

日韓両言語における漢語動詞の対応をめぐって (1)⁽¹⁾

—— 韓日対訳小説を一例として ——

尹 亭 仁

1. はじめに

日韓両言語における漢語動詞の対応については、従来様々な観点から取り上げられてきた。本稿では、両言語における漢語動詞の対応の様相をより具体的に捉えるべく、韓日対訳小説の『한낮의 시선』(2009)／『真昼の視線』(2013)に見られる漢語動詞の用例を中心に取り上げることにしたい。

まず、(1)～(4)のような音節ごとの対応の例を見てみよう（以下、kは韓国語の文、jは日本語の文を表わす）。

- (1) k. …외톨이인 데다가 과거에 대(對)한 기억에 유난히 민감한 이 젊은이는…(p. 5)
j. …身寄りのない独り者で過去に対する⁽²⁾記憶にとっても敏感な若者は…(p. 3)
- (2) k. …가까운 인구 3만의 작은 도시인 이곳에 한밤중에 도착(到着)했다. (p. 7)
j. …近い人口3万人の小さな都市であるこの町に真夜中に到着した。(p. 5)
- (3) k. …함으로써, 그는 은연 중에 페루 해변을 갠지스강과 동일시(同一視)했다. (p. 5)
j. …と言って、彼はそれとなくペルーの海岸をガンジス河と同一視した。(p. 4)
- (4) k. 그는 정년퇴직(定年退職)한 국립대학 교수였다. (p. 23)
j. 彼は定年退職した国立大学の教授だった。(p. 18)

1音節、2音節、3音節、4音節の漢語動詞はいずれも両言語の漢語動詞の用法において、いわば「正の転移」を示す用例である。母語が目標言語の習得を促進する正の転移(positive transfer)の観点からすると、(1)～(4)の漢語動詞の用法は学習者にとって両言語の理解や上達を促す。しかし、母語が目標言語の習得に妨げになる負の転移(negative transfer)の観点からすると、(5)～(8)のような対応は日韓両言語の言語教育において妨げになる用例である。

- (5) k. 밤이 되면 술에 취(醉)한 군인들이 여인숙 담벼락에…(p. 47)
j. 夜になると酒に酔った軍人たちが旅館の塀に…(p. 38)
- (6) k. 나는 없습시다, 하고 일른 대답(對答)했다. (p. 24)
j. 僕はいないです、とすぐに答えた。(p. 19)
- (7) k. …외출할 때는 문단속(門團束)을 어떻게 해야 하는지…(p. 18)
j. …外出する時には戸締りをしっかりとるように…(p. 14)
- (8) k. …전전긍긍(戰戰兢兢)하는 것 같다는 생각이 들기도 했던 것이다. (p. 44)
j. …びくびくするような思いがする時もあったのだ。(p. 36)

1音節、2音節、3音節、4音節の漢語動詞はいずれも『한낮의 시선／真昼の視線』(2009/2013)に

(1) 本研究は、JSPS 科研費 15K02703 の助成を受けたものである。

において負の転移に繋がる用例である。負の転移の様子は、(5)～(8)以外に多岐にわたっている。尹亨仁(2014)で示したように、日韓両言語の漢語動詞の用法における負の転移は全体の語数からは少ないが、様子からは非常に複雑である。

本稿では、韓日対訳小説での漢語動詞の使用状況および対応関係に注目し、尹亨仁・車香春(2013)の辞書の見出し語の対応では見られなかった側面が文脈のある具体的な場面ではどういうふうな違いをもたらすのか、また7対3という正の転移と負の転移の割合がどう変わるのか、その一端を明らかにしたい。

以下では、次のような順序で論を進める。

第2節では、先行研究について触れる。

第3節では、韓日対訳小説から得られた漢語動詞の分析を行なう。

第4節では、韓日対訳小説に見られる正の転移の様相について考察する。

第5節では、韓日対訳小説に見られる負の転移の様相について考察する。

第6節では、今までの考察をまとめる。

2. 先行研究の考察と本稿の目的

門脇誠一(1989)、安平鎬・張根壽(2001)、裴晋影(2008)、三宅知宏(2010)で、日韓両言語における漢語動詞の対応について取り上げている。管見の限り、漢語動詞の対応について、具体的に調査対象を設定し、定量的な分析に取り組んだ研究は見当たらない。

尹亨仁・車香春(2013)では、使用語彙を中心に編まれた『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)に見出し語として載っている2字漢語動詞約5,330語を分析し、7割強が「正の転移」に、3割弱が「負の転移」につながるという結果を提示している。

本稿では、両言語の漢語動詞の対応の状況をより具体的に捉えるべく、韓国語で書かれた長編小説を1冊選び、それを日本語の対訳本と照らし合わせながらその様相を調べた。「小説」という限定されたジャンルのデータ(以下では、この調査で得られた漢語動詞に関するデータを《小説データ》と称する)ではあるが、両言語の漢語動詞の対応および使用状況を具体的に提示してくれると思われる。さらに、この考察の結果は、両言語の漢語動詞の領域と周辺、とりわけ「和語動詞」(韓国語の場合は「固有語動詞」との関連性も多く示唆してくれると思われる。

以下では、《小説データ》を拠り所にして実例の対応関係を取り上げていく。それによって、韓国語の漢語動詞に日本語の漢語動詞が対応できない語彙的・統語的側面が明らかになるとと思われる。

3. 韓日対訳小説の対応に見られる漢語動詞の分析

3.1 分析対象作品

本稿で分析対象として選んだ作品は、韓日対訳小説の『한낮의 시선』(李承雨著, pp. 5-159, 2009)である。いくつかの小説を対象にして分析を試みたが、意識が多いこと、訳にむらがあることなどから、岩波書店から出版されたこの小説の翻訳本の『真昼の視線』(2013)に対象を絞った⁽³⁾。小説より

(2) 「대(對)하다」は連体形の場合、常に過去形で用いられるが、日本語は「対する」という現在形である。厳密な意味では負の転移とも受け止められるが、用法がほぼ決まっているので、正の転移に含めた。また、漢字表記において、正字を用いる韓国の漢字と略字を用いる日本の漢字は同じ扱いをした。

(3) 『真昼の視線』(2013)でも、5か所ほど訳が抜けている。日本語を韓国語に訳す際もこういうことが生じるか確かめるべく、村上春樹の『職業としての小説家』(2015)と韓国語訳『직업으로서의 소설가』(2015)

比喩や意識が少ない韓日対訳エッセイの存在を求めたが、現時点で適当な作品は見当たらなかった。

本稿では、『한낮의 시선／真昼の視線』（2009/2013）の漢語動詞の用例を音節ごとに分類した《小説データ》を拠り所にして、両言語の漢語動詞の用例の対応の様子および「正の転移」や「負の転移」の分析を試みる。

3.2 分析対象語彙

今回の調査では、両言語ともに「漢語+하다」および「漢語+する／ずる／じる」の語構成を成す動詞、いわば「漢語動詞」と分類される語のみを対象とした。(9a)のように、漢語動詞の語幹「-하-」に連結語尾「-지-」が結合し「-치-」になっている縮約形の用法も対象に含めた。(9b)のように、「漢語動詞」と接尾辞「-하다」の間に助詞が挿入されたものや(9c)のように、「漢語動詞」と接尾辞「-하다」の間に「가끔」「어떻게」など副詞(形)が挿入されたものも対象に含めた。(9d)のように、「-하다」の様々な活用形の用法も語数にカウントし、分析対象に含めた。

- (9) a. 개의(介意) 치 = 개의하지
 원(願) 치 = 원하지
 b. 청소(淸掃) 를 하고
 추궁(追窮) 도 하지
 장식(粧飾) 은 하지
 c. 경험(經驗) 을 가끔 했다
 문단속(門團束) 을 어떻게 해야
 d. 연기(演技) 함으로써
 오해(誤解) 하기에는
 동조(同調) 해서가

しかし、(10ab)のように、「漢語+하다」の語構成に見えるが、漢語動詞ではないものは除外した⁽⁴⁾。

- (10) a. 언행(言行)을 하다 언행하다 ×
 난방(暖房)을 하다 난방하다 ×
 b. 감정이입(感情移入)까지 하며 감정이입하다 ×
 자기소개(自己紹介)를 하고 나서 자기소개하다 ×
 합의이혼(合意離婚)을 한 적이 있다 합의이혼하다 ×
 기자회견(記者會見)까지 해 달라고 하다 기자회견하다 ×
 의사표명(意思表明)을 하다 의사표명하다 ×

3.3 漢語動詞の語彙数

『한란의 시선』(2009)に用いられた韓国語の漢語動詞は1104語である(〈表1〉参照)。これらの訳に対応する日本語の漢語動詞は533語である(〈表2〉参照)⁽⁵⁾。訳語の語数には翻訳者が選ぶ語彙の違いが多少なり影響していると思われる。しかし、予想より差が大きい。これは両言語の漢語動詞において負の転移に繋がるもので、音節ごとにその原因を調べる必要があると思われる。本稿では、韓国語の

を全文調べたが、訳漏れはなかった。韓国語を日本語に訳す際の訳漏れについては今後問題視する必要があると思われる。

(4) 基準として李基文(2003)に見出し語として載っており、接尾辞の「-하다」と結合して漢語動詞としての用法を持つ語に限定した。

(5) 韓国語の漢語動詞の可能表現である「漢語+할 수 있다」に対応する日本語は「漢語+(することが)できる」なので、今回の調査では「漢語+できる」形も分析対象に含めた。

〈表1〉『한낮의 시선』(2009)に用いられた漢語動詞の語数

音節	延べ語数	異なり語数
1 音節	304	29
2 音節	790	304
3 音節	5	5
4 音節	5	5
5 音節	0	0
6 音節	0	0
総語彙数	1,104	343

〈表2〉『真昼の視線』(2013)に用いられた漢語動詞の語数(韓国語に対応)

音節	延べ語数
1 音節	23
2 音節	504
3 音節	4
4 音節	2
5 音節	0
6 音節	0
総語彙数	533

〈表3〉日韓対訳小説に見られる漢語動詞の正の転移および負の転移の延べ語数

音節	正の転移の延べ語数	負の転移の延べ語数
1 音節	23	282
2 音節	451	338
3 音節	4	1
4 音節	2	3
5 音節	0	0
6 音節	0	0
総語彙数	480	624

〈表4〉『真昼の視線』(2013)に用いられた漢語動詞の語数(韓国語に非対応・日本語のみ)

音節	延べ語数
1 音節	115
2 音節	224
3 音節	2
4 音節	0
5 音節	0
6 音節	0
総語彙数	341

〈表5〉『真昼の視線』(2013)に用いられた1字漢語動詞の語数

番号	日本語	延べ語数
1	愛する	35
2	害する	5
3	感じる	42
4	察する	1
5	信じる	23
6	接する	1
7	対する	3
8	達する	1
9	発する	2
10	要する	2
		115

方が倍以上も多く、漢語動詞を用いる背景についても考察したい。

日韓両言語間で正の転移を示す漢語動詞は 480 語であり (〈表 3〉参照)、割合からすると 43.47% である。この数値は、辞書の見出し語の 2 字漢語動詞を対象に調べた尹・車 (2013) の結果である 7 割を大きく下回る。これには、2 字漢語動詞より語数は多くないが、〈表 7〉で示すように、頻度の高い 1 字漢語動詞の負の転移が大いに関与している。これについては、5-1 で詳しく取り上げる。

今回の調査で、〈表 5〉のように、韓国語は固有語なのに日本語は漢語動詞である 1 字漢語動詞の対応も多く見られた。「愛する：사랑하다」は『한낮의 시선』(2009) のテーマと関係があるため、多く用いられたが、「感じる：느끼다」「信じる：믿다」はテーマと関係なく頻度が高いと思われる。

〈表 5〉のリスト以外にも (11) のような動詞が挙げられる。今のところ、日本語の漢語動詞についての一定の目安の数字はまだ報告されていない。現在、この対応関係を明らかにすべく、『デイリーコンサイス日韓辞典』(2009) の見出し語を対象に語彙調査を行っている。また日韓対訳の小説とエッセイを対象に対応関係も調べている。

- (11) 圧する・案じる・逸する・演ずる・慨する・帰する・記する・減じる・資する・生じる・節する・損する・脱する・断じる・呈する・適する・得する・排する・配する・博する・黙する・目する・訳する・有する・擁する……

ここまで、『한낮의 시선』/『真昼の視線』(2009/2013) に用いられた漢語動詞の語数および特徴について取り上げた。対訳小説の場合、辞書の見出し語より漢語動詞の正の転移の比率が下がる。これには頻度の高い複合格助詞の機能をする 1 字漢語動詞の存在が大きいことが〈表 3〉からも見て取れる。

以下では、音節ごとに日韓両言語の漢語動詞の対応の様相を見てみよう。

4. 韓日対訳小説に見られる「正の転移」の様相

4.1 1 字漢語動詞の場合

《小説データ》では、29 語の 1 字漢語動詞が用いられていた (〈表 1〉・〈表 7〉参照)。部分的にでも正の転移を見せていたのは (12) の 3 語である。

- (12) a. 대(對)하다：対する
b. 속(屬)하다：属する
c. 통(通)하다：通じる

(12a) の「대(對)하다」は、延べ語数が 58 にも及ぶ、《小説データ》の中で使用頻度の非常に高い動詞である。用例(1)を含め(13)のように、正の転移の用法が見られた反面、(14)のように「ついて」に訳された用例が多かった。文脈によっては(15)のように、まったく関係のない語が用いられた訳もあった。

- (13) k. 마치 새들에게 성지에 대(對)한 동경이 있더라도 한 것처럼. (p. 5)

j. まるで鳥たちに聖地に対する憧れがあるかのように。(pp. 3-4)

- (14) k. 그러나 나는 그녀가 생각도 하지 않았을 요양에 대(對)해 말함으로써…(p. 10)

j. ところが彼女は僕が思いもつかなかった療養について話したので…(p. 8)

- (15) k. 실제 고문을 받는 것보다 고문에 대(對)해 상상하는 것이 더 고통…(p. 18)

j. 実際に拷問を受けるより拷問を想像する方がもっと苦しいという言葉が…(p. 15)

「대하다」の 58 の用例の中で、連用形である「대해」の用例が 26 もあり、「対して」ではなく「ついて」が対応しているのが 22 にもなる。連体形の「대한」に対して「対する」の対応が多い中、「ついて」が対応しているのが 4 つあった。この複合格助詞の「～に対して」と「～について」の日本語のすみ分けは韓国語を母語とする日本語学習者にとって非常に気になるところであるが、本稿ではこれ以上

は立ち入らないことにしたい⁽⁶⁾。

〈表 6〉『デイリーコンサイス韓日・
日韓辞典』(2009)の漢語動
詞の語数

音節	漢語動詞
1 音節	82
2 音節	5,334
3 音節	283
4 音節	237
5 音節	0
6 音節	1
総語彙数	5,937

(尹亨仁 (2015), p. 22 からの再掲)

4.2 2字漢語動詞の場合

《小説データ》で最も多く用いられていたのは、当然と言えば当然の2字漢語動詞である。全体の1104語の漢語動詞に対して、延べ語数が790語であり、異なり語数は304語である(〈表1〉参照)。この1104語の漢語動詞に対して、71.55%を占めている。

尹亨仁(2015)の語彙調査で、2字漢語動詞は全体の漢語動詞5,937語の中で5,334語であり(〈表6〉参照)、割合からすると89.84%である。71.55%という数値は、尹亨仁(2015)の語彙調査を下回る結果である。調査対象が小説ではなく、エッセイや専門書になると、漢語動詞の使用が多くなるので、その分2字漢語動詞が全体で占める割合も高くなると思われる。引き続き、ジャンルを広げて語彙調査および分類・分析する必要がある。

韓国語の790語に対して日本語は451語が用いられている。正の転移の比率は57.08%である。尹・車(2013)で、日韓両言語における2字漢語動詞の対応の場合、7割強の結果を提示している。辞書のように語彙論レベルでの対応より文脈つきの統語・意味論レベルでの対応においてその比率が下がることは充分予想できることである。負の転移の様相については、5-2で詳しく取り上げる。

日韓両言語の漢語動詞の用法において、正の転移を見せている辞書の見出し語の対応と翻訳小説の対応にはどういう違いがあるかについて見てみよう。(16)~(23)は日本語に対応する漢語動詞があるにも関わらず、すなわち正の転移になるのに、和語動詞や他の表現が用いられた用例である。

- | | |
|------------------------|------------|
| (16) k. 감안(勘案)하다: 勘案する | j. 相当する訳なし |
| (17) k. 감지(感知)하다: 感知する | j. 気がつく |
| (18) k. 개의(介意)하다: 介意する | j. 気にする |
| (19) k. 거절(拒絶)하다: 拒絶する | j. 拒む・断る |
| (20) k. 견지(堅持)하다: 堅持する | j. もつ・ふるまう |
| (21) k. 결합(結合)하다: 結合する | j. 組み立てる |
| (22) k. 고려(考慮)하다: 考慮する | j. 考える |
| (23) k. 생존(生存)하다: 生存する | j. 生き残る |

(16)~(23)が対応する漢語動詞があるにも関わらず、他の動詞や表現が用いられたのに対して、不自然さを感じるほど韓国語の漢語動詞を直訳したような用例も見られた。(24a)~(24n)のような訳語を見てみよう。これらは、文脈によっては(24a')~(24n')の訳語が自然な場合もある。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| (24) a. 간청(懇請)하다: 懇請する | a'. 懇願する・頼み込む |
| b. 갈망(渴望)하다: 渴望する | b'. 切望する |
| c. 관통(貫通)하다: 貫通する | c'. 貫く |
| d. 몰입(没入)하다: 没入する | d'. 夢中になる |
| e. 방해(妨害)하다: 妨害する | e'. 邪魔する |
| f. 변명(辨明)하다: 弁明する | f'. 弁解する・言い訳をする |
| g. 보충(補充)하다: 補充する | g'. 補う |

(6) 中西・庵(2010), p. 5に「について」は「内容を表す」, 「に対して」は「動作や関心が向かう対象を表す」という説明が施されている。

h. 산책(散策)하다: 散策する	h'. 散歩する
i. 실망(失望)하다: 失望する	i'. がっかりする
j. 응시(凝視)하다: 凝視する	j'. 見つめる
k. 착각(錯覺)하다: 錯覺する	k'. 勘違いする
l. 탐닉(耽溺)하다: 耽溺する	l'. 溺れる
m. 포기(抛棄)하다: 放棄(抛棄)する	m'. 諦める
n. 현혹(眩惑)하다: 眩惑する	n'. 惑わす

(25)は、尹・車(2013)で正の転移に分類された類である。しかし、文脈によっては負の転移になる可能性が高い。漢語動詞と和語動詞の用法が共存しているこの類についての語彙調査およびすみ分けの条件などについて考察する必要がある。

(25) 계속(繼續)하다	継続する・続ける
고려(考慮)하다	考慮する・考える
공격(攻撃)하다	攻撃する・攻める
관통(貫通)하다	貫通する・貫く
기억(記憶)하다	記憶する・覚える
단정(斷定)하다	断定する・決め込む
목격(目撃)하다	目撃する・目にする
반문(反問)하다	反問する・聞き返す
반복(反復)하다	反復する・繰り返す
발견(發見)하다	発見する・見つける
방문(訪問)하다	訪問する・訪ねる
부연(敷衍)하다	敷衍する・付け加える
수긍(首肯)하다	首肯する・受け入れる
억제(抑制)하다	抑制する・抑える
연결(連結)하다	連結する・つなげる
연착(延着)하다	延着する・遅れる
위장(偽装)하다	偽装する・装う
이용(利用)하다	利用する・使う
지시(指示)하다	指示する・示す・指し示す
진열(陳列)하다	陳列する・並べる
투숙(投宿)하다	投宿する・泊まる
포기(抛棄)하다	放棄する ⁽⁷⁾ ・諦める
포착(捕捉)하다	捕捉する・捉える
포함(包含)하다	包含する・含む
획득(獲得)하다	獲得する・勝ち取る
후회(後悔)하다	後悔する・悔やむ……

4.3 3字漢語動詞の場合

《小説データ》に用いられた韓国語の3字漢語動詞は5語である(〈表1〉参照)。その中で正の転移を示した語は(26)の4語である。

(7)《小説データ》で「포기(抛棄)하다」はすべて「放棄する」に訳されているが、不自然である。

- (26) 동일시(同一視)하다: 同一視する
 입후보(立候補)하다: 立候補する
 재확인(再確認)하다: 再確認する
 최소화(最少化)하다: 最少化する

4.4 4字漢語動詞の場合

《小説データ》に用いられた韓国語の4字漢語動詞は5語である(〈表1〉参照)。その中で正の転移を示した語は(27)の2語である。

- (27) 우왕좌왕(右往左往)하다: 右往左往する
 정년퇴직(停年退職)하다: 定年退職する

4.5 5・6字漢語動詞の場合

尹亨仁(2015)で取り上げたように、韓国語の漢語動詞の中で5字漢語動詞の存在は確認できていない。《小説データ》からも5字および6字漢語動詞の用法は確認できなかった⁽⁸⁾。

ここまで、尹亨仁(2014)および尹亨仁(2015)の調査結果を参考にしつつ、『한낫의 시선』/『真昼の視線』(2009/2013)に用いられた漢語動詞1,100語、とりわけ正の転移を見せていた480語の音節ごとの対応について取り上げた。対応する漢語動詞が存在するにも関わらず、文脈によっては他の動詞や表現を用いていることが分かった。語彙レベルでの対応より統語・意味レベルでの対応において正の転移の比率が下がることも確認できた。

5. 韓日対訳小説に見られる「負の転移」の様相

《小説データ》では、両言語の漢語動詞の用法において全体的に正の転移より負の転移を示す用法が多かった(〈表3〉参照)。本節では、韓国語の方が倍以上の漢語動詞を用いる背景について取り上げたい。

5.1 1字漢語動詞の場合

《小説データ》で、〈表7〉に提示する29の1字漢語動詞の中で「속(屬)하다」のみが正の転移を見せ、「대(對)하다」と「통(通)하다」は部分的に正の転移を見せていた。すなわち〈表7〉の26の動詞が負の転移の様相を見せていた。29語のうち*がついている5語が漢語動詞、24語が韓国語は漢語動詞なのに日本語は和語動詞に分類される類である。漢語動詞と和語動詞の対応は韓国語母語話者には非常に気になるところである。裴晋影(2008)の場合、1字漢語動詞の語幹の漢字に注目し、両言語においてそれが「同形」か「異形」かについて論じている。〈表7〉で分かるように、日韓両言語の1字漢語動詞の漢字1字は、動詞の意味の把握に参考になる。

〈表7〉の頻度の高い「대(對)하다」「위(爲)하다」「의(依)하다」「향(向)하다」および「인(因)하다」などは、「~에 대(對)하다」「~를/을 위(爲)하다」「~에 의(依)하다」「~(으)로 인(因)하다」「~를/을 향(向)하다」の用法を持ち、動詞というよりいわば「複合格助詞」としての用法が目立つ。この5語が占める割合は全体で58.88%である。《小説データ》で、負の転移の比率が高かったのはこの1字漢語動詞の負の転移が大きく関わっていると言えよう。これらの動詞の使

(8) 小林(2004)に、日本語の2字~4字漢語動詞を取り上げているが、5・6字漢語動詞についての言及はない。

用頻度が高くなればなるほど、負の転移の比率も高くなる。特に、「위하다」「인하다」「향하다」は(28)のように、共起する助詞もずれている。他の韓日対訳小説からもこの傾向を確かめる必要があると思われる。

- (28) a. ~를/을 위하다
 ~の為(に)
 b. ~(으)로 인(因)하다
 ~に因る
 c. ~를/을 향(向)하다
 ~に向かう・~に向ける

5.2 2字漢語動詞の場合

日韓両言語における2字漢語動詞の負の転移については尹亭仁(2014)で詳しく取り上げられた。本稿ではそれに倣い、338の漢語動詞の対応が見せた「6つの負の転移」の様子について取り上げたい。

5.2.1 【非対応1】

【非対応1】は、(29)のように韓国語の「2字漢語 VN+하다」に「まったく異なる2字漢語 VN+する」が対応する類である。

- (29) 공부(工夫)하다: 勉強する
 대답(對答)하다: 返事する
 방심(放心)하다: 油断する
 인사(人事)하다: 挨拶する
 염려(念慮)하다: 心配する
 조심(操心)하다: 注意する・
 気をつける……

「공부(工夫)하다」は韓国語の初級テキストに必ず出てくる語彙であり、いずれも頻度の高い漢語動詞である。学習者は母語干渉による誤用を防ぐために繰り返し用いるしかないと思われる。

5.2.2 【非対応2】

【非対応2】は、(30)のように「2字漢語 VN+하다」に「類似した2字漢語 VN+する」が対応する類である。韓国語と日本語は文構造が類似しているため、翻訳の場合互いにつられる部分が多い。【非対応2】は【非対応1】より誤訳・誤用に繋がりがやすい。

- (30) a. 대비(對備)하다: 対応する
 b. 보완(補完)하다: 補足する

〈表7〉『한낫의 시선』(2009)に用いられた
1字漢語動詞

番号	動詞	日本語	延べ語数
1	가(加)하다	加える	1
2	구(求)하다	求める	6
3	구(救)하다	救う	3
4	권(勸)하다	勧める	2
5	답(答)하다	答える	2
6	당(當)하다	やられる	8
7	대(對)하다	対する*	58
8	변(變)하다	変わる	1
9	비(比)하다	比べる	1
10	상(傷)하다	腐る	1
11	속(屬)하다	属する*	1
12	욕(辱)하다	侮辱する・罵倒する	2
13	원(願)하다	願う・望む	45
14	위(爲)하다	為(に)	81
15	의(依)하다	依る	11
16	인(因)하다	因る	3
17	전(傳)하다	伝える	2
18	접(接)하다	接する*	1
19	정(定)하다	定める	1
20	취(取)하다	取る	2
21	취(醉)하다	酔う	2
22	칭(称)하다	称する*	1
23	탐(貪)하다	貪る	1
24	택(擇)하다	択ぶ	2
25	토(吐)하다	吐く	6
26	통(通)하다	通じる*・通す	11
27	표(表)하다	表わす・示す	1
28	피(避)하다	避ける	22
29	향(向)하다	向ける・向かう	26
			304

- c. 용납(容納)하다: 容赦する
- d. 위협(威脅)하다: 威嚇する
- e. 전역(轉役)하다: 退役する
- f. 추궁(追窮)하다: 追及する
- g. 통박(痛駁)하다: 反駁する
- h. 혁신(革新)하다: 変革する……

5.2.3 【非対応 3】

【非対応 3】は，韓国語の「音読みの 2 字漢語 VN+하다」に「訓読みの和語動詞」が対応している類である。そもそも全体の語数の少ない類であり，《小説データ》から(31)の「간주하다」の 1 例が見られた。

- (31) 간주 (看倣) 하다: 看倣す

5.2.4 【非対応 4】

【非対応 4】は，「2 字漢語 VN+하다」に「和語動詞」が対応する類である。今回の調査で，(32abcdefg) のような用例が見られた。いずれも頻度の高い動詞である。

- (32) a. 고민(苦悶)하다: 悩む
 b. 대답(對答)하다: 答える
 c. 부탁(付託)하다: 頼む
 d. 시도(試圖)하다: 試みる
 e. 시작(始作)하다: 始まる・始める
 f. 이사(移徙)하다: 引っ越す
 g. 호소(呼訴)하다: 訴える

(32e) の「시작 (始作) 하다」は 11 の用例が見られたが，「始まる」が 1 例，「始める」が 9 例であった。「시작 (始作) 하다」は「V-기 시작하다」の用法を持ち，これに対して日本語は補助動詞の「V-始める・出す」が対応する。今回の調査で 2 例が見られた。

5.2.5 【非対応 5】

【非対応 5】は，(33)のように「2 字漢語 VN+하다」に「まったく異なる表現」が対応する類である。《小説データ》から多くの用例が見られた。

- (33) a. 간구(懇求)하다: 切に求める
 b. 불구(不拘)하고: 拘わらず
 c. 순종(順從)하다: 素直に受け入れる
 d. 작정(酌定)하다: 思う
 e. 정색(正色)하다: 真顔になる
 f. 질겁(窒怯)하다: ぞっとする
 g. 짐작(斟酌)하다: 推測する・推しはかる
 h. 참견(參見)하다: 話に入り込む・気にしない
 i. 처신(處身)하다: 自負する
 j. 치부(置簿)하다: 心に刻んでおこうとする
 k. 탕진(蕩盡)하다: 使い果たす
 l. 행세(行世)하다: ふるまいをする

m. 형언(形言)하다: 言葉で言い表す……

【非対応 5】の場合, そもそも対応する漢語動詞がないため, 文脈によってはかなり訳の幅が広がる。(33d) (33i) (33j) の「작정하다」「처신하다」「치부하다」はそれを表わしている。

5.2.6 【非対応 6】

【非対応 6】は, 韓国語の「2 字漢語 VN」に対応する名詞形はあるものの, 「2 字漢語 VN+하다」に対応する「VN+する形」がないため, 他の述語が加わる類である。韓国語は漢語動詞なのに日本語は漢語動詞としての用法がない類である。

(34abcdef) は, 尹亨仁 (2014) で日韓両言語の漢語動詞の対応に見られる負の転移において, 最も割合が高いと指摘された類である。李基文 (2003) および『大辞林』(2005) の見出し語を中心に調べたところ, この類は 500 語以上にも上った。

- | | |
|----------------------------|---------------|
| (34) a. 비유(比喩)하다 ⇔ 比喩(×する) | a'. 喩える・比喩にする |
| b. 야근(夜勤)하다 ⇔ 夜勤(×する) | b'. 夜勤だ |
| c. 연극(演劇)하다 ⇔ 演劇(×する) | c'. 芝居をうつ |
| d. 욕망(欲望)하다 ⇔ 欲望(×する) | d'. 欲求する |
| e. 의심(疑心)하다 ⇔ 疑心(×する) | e'. 疑う |
| f. 조준(照準)하다 ⇔ 照準(×する) | f'. 照準を定める |

【非対応 6】は筆者を始め, 韓国語母語話者の場合, 母語干渉を起こしやすい。うっかりすると, 「*比喩する」「*夜勤する」のように誤用に繋がる。(34a) の「비유(比喩)하다: 喩える」や (34e) の「의심(疑心)하다: 疑う」のように頻度の高い漢語動詞は覚えて対応するしかない。

5.3 3 字漢語動詞の場合

《小説データ》で, 3 字漢語動詞は 5 語である (〈表 1〉参照)。その中で負の転移を示した語は(35) 1 語である。

- (35) 문단속(門團束)을 하다: 戸締りをする

5.4 4 字漢語動詞の場合

《小説データ》で, 4 字の漢語動詞は 5 語である (〈表 1〉参照)。その中で負の転移を示した語は(36) の 3 語である。(36a) は「戦々恐々する」という漢語動詞があるにも関わらず, 「びくびくする」と訳された用例である。(36b) は日本語にない 4 音節語であるため, そもそも負の転移になるものである。

- (36) a. 전전긍긍(戰戰兢兢)하다: びくびくする
 b. 거두절미(去頭截尾)하다: 単刀直入に投げかける
 자수성가(自手成家)하다: 一代で財を築く

5.5 5・6 字漢語動詞の場合

尹亨仁 (2015) で取り上げたように, 韓国語の漢語動詞の中で 5 字漢語動詞の存在は確認できていない。《小説データ》でも, 5 字漢語動詞は見当たらなかった。また, 6 字漢語動詞は, 自動詞の「동가식 서가숙(東家食西家宿)하다」の 1 語のみであるが, 今回の調査でその用法は見られなかった。

ここまで, 韓日対訳小説に見られる漢語動詞の負の転移について取り上げた。尹・車 (2013) で, 『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009) の見出し語の対応に見られる日韓両言語の 2 音節語の漢語動詞の負の転移は 3 割弱であると述べられている。今回の対訳小説の場合, 漢語動詞全体の負の転移の比率は 4 割強という結果が出た。特に, 1 字漢語動詞は異なり語数は少ないが延べ語数が多いことが

分かった。一部の動詞は助詞としての機能をも果たしており、それが延べ語数に影響していることも分かった。今回の調査で、両言語ともに1字漢語動詞が呈する非対応、すなわち負の転移の様子が明らかになったと思われる。

6. 終わりに

本稿では、韓日対訳小説の『한낮의 시선』／『真昼の視線』（2009/2013）に見られる漢語動詞の用例を中心にその対応関係を取り上げた。両言語の間には対応する同じ漢語動詞があるにも関わらず、文脈によっては他の動詞や表現を用いる現状が浮き彫りになった。実際の使用状況を見ると、負の転移の割合が上がるのが分かった。これは、日韓両言語における漢語教育に影響を及ぼすと同時に課題も提示するものである。

日韓対訳小説での漢語動詞の対応の状況、日韓エッセイや専門書などでの対応の状況などは今後の課題としたい。

参考文献

- 安平鎬・張根壽（2001）「「一字漢語＋スル」と「一字漢語＋하다（hata）」『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書 別冊「하다」と「する」の言語学』、筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- 李基文監修（2003）『東亜新国語辞典』第5版、東亜出版社
- 門脇誠一（1989）「日・朝語対照研究——「漢語＋する」と「漢語＋hada」について——」、『北海道東海大学紀要人文社会科学系』第2号、pp. 39-58
- 小林英樹（2004）、『現代日本語の漢語動名詞の研究』、ひつじ書房
- 中西久実子・庵功雄（2010）『日本語文法練習 助詞——「は」と「が」、複合格助詞、とりたて助詞など——』、スリーエーネットワーク
- 裴晋影（2008）「韓日両語における「一字漢語動詞」の対応傾向」、『東北亜文化研究』17、pp. 383-400、東北亜細亜文化学会
- 松村明編（2005）『大辞林』第2版、三省堂
- 三宅知宏（2010）「“一字漢語スル”型動詞をめぐって」、大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル（編）『漢語の言語学』、くろしお出版
- 尹亭仁編（2009）『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』、三省堂
- 編（2009）『デイリーコンサイス日韓辞典』、三省堂
- （2014）「日韓両言語における漢語動詞の「負の転移」をめぐって——2字漢語動詞を中心に」『神奈川大学言語研究』37、pp. 1-26、神奈川大学言語研究センター
- （2015）「韓国語の漢語動詞・漢語形容詞の語彙調査——『デイリーコンサイス韓日辞典』（2009、三省堂）の分析を中心に——」『神奈川大学人文研究所報』55、pp. 21-30、神奈川大学人文研究所
- 尹亭仁・車香春（2013）「韓国語と日本語の2字漢語動詞に関する一考察——韓日辞典に見られる異同を手がかりに」『神奈川大学言語研究』36、pp. 1-24、神奈川大学言語研究センター

小説

〈韓国語〉

이승우（2009）『한낮의 시선』、자음과 모음

무라카미 하루키（2015）『『직업으로서의 소설가』（양윤옥 옮김）（2015）、현대문학

〈日本語〉

李承雨（2013）『真昼の視線』（金順姫訳）、岩波書店

村上春樹（2015）『職業としての小説家』、SWITCH LIBRARY